

陸奥新報社賞

弘大COIネクスト顕彰

岩木健診核に
多角的な研究
取り組みたたえる



陸奥新報社は1日、第45回陸奥新報社賞の顕彰式を弘前市の弘前パークホテルで行った。大規模合同住民健診「岩木健康増進プロジェクト」(以下岩木健診)で蓄積する世界に類を見ない健康ビッグデータを核に、産学官金民連携の拠点として、県民の健康寿命延伸や地域活性化につながる研究成果を創出する、弘前大学健康未来イノベーション研究機構(弘前大COI-NEXT、以下弘前大COIネクスト)の功績をたたえた。

(稲葉智絵、田中康貴)

成田社長(右)から顕彰盾を受け取る村下副学長(中央)ら

陸奥新報社賞は郷土の産業、経済、文化、社会福祉などで著しい功績を挙げた個人・団体を顕彰している。

弘前大COIネクストは「短命県」の脱却を目指し、弘前市岩木地区を中心とした住民を対象に、市など共同で岩木健診を展開。全身を網羅する約3000の検査項目を蓄積する。

21年間で延べ約3万人の健康ビッグデータを核に、全国の大学や大手企業などと連携し、疾病の予兆・予防法確立といった多角的な研究を推進。これらの知見を基盤に、新行動変容プログラム「QOL(生活の質)健診」の開発・展開、弘前大発スタートアップ企業を創設している。また、第1回日本オープンイノベーション大賞の最高賞「内閣総理大臣賞」をはじめ国内外の賞を多数受賞。

顕彰式には約30人が出席。

席。陸奥新報社の成田幸男社長が「岩木健診の健康ビッグデータを核にした多角的な研究活動とともに、その拠点となる弘前大COIネクストのさらなる飛躍を期待する」とあいさつし、顕彰盾などを機構長を務める村下公一副学長(教授、グローバルWellbeing総合研究所副所長)らに手渡した。

村下副学長は「地域の歴史ある賞を頂き、大変光栄に思う」と感謝。国の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PERAKS)」が始動したことを踏まえ、「弘前発の取り組みを世界に広め、より幸せで充実した社会づくりに貢献していきたい」と述べた。中路重之特別顧問は「短命県返上に向けた取り組みをさらに前進させていく」と力を込めた。

副賞寄贈社は次の通り。(順不同)

▽東奥信用金庫、六花酒造、イマジン